

大阪+知的障害+地域+おもしろい=創造

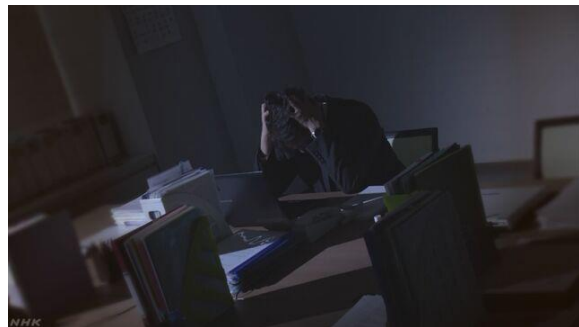
知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3777 号 2017.7.17 発行

個性？それとも“大人の発達障害”？

NHK ニュース 2017年7月15日

「空気が読めない」「集団行動が苦手」と悩んでいる人、周りにいませんか？もし、あなたや、あなたの大切な人が“大人の発達障害”と診断されたら、どうしますか？いま、あるプログラムが注目を集めています。（おはよう日本 池内由宇記者）



「大人の発達障害」とは？

“大人の発達障害”は、子どものころは見過ごされ、大人になって初めて診断される発達障害です。

発達障害は、病気ではありません。

生まれつき、脳の機能の発達に偏りがあることを言います。

例えば、報告・連絡・相談がうまくできなかつたり、こだわりが強く、周りの状況が分からなくなったりして、悩みを抱える大人が多くなっています。



東京都発達障害者支援センターによると、20代～50代の「働く世代」からの電話相談件数が、この10年で約10倍に増えました。専門的な診断ができる病院でも受診する大人が急増しています。特に多いのが、仕事でうつ病になるほど追い詰められ、その治療を続けるなかで“大人の発達障害”と診断されるケースです。

発達の偏りと職場環境で生きづらくなる

井上さん（仮名・40代）もその一人でした。

学生時代は成績優秀。

大手IT企業の一流の営業マンとしてがむしゃらに働き、昼は外回り、夜は終電まで仕事に没頭する生活を10年以上続けていました。

妻と子どもがいて、豊かな人生を送ってきたはずでした。

転職は3年前。いわゆる中間管理職になり、異変が起きました。

職場で失敗が続くようになったのです。

特にうまくいかなかったのが、ほかの部署との調整が必要な仕事でした。



井上さん(仮名・40代)

上司から、「この間の件、報告ないけど調整はついたの？」と聞かれても、「できていません」としか答えられません。「連絡はしたのか？」と問われても、押し黙ってしまいました。

相手の邪魔になることへの不安が強く、連絡ができなかったのです。

井上さんがもうひとつ苦手だったのが、多くの人に参加する会議でした。

議論の内容が分からなくなるのです。

例えば、会議の中で、「後日、営業部とすり合わせたほうがいい」「その調整を、井上君お願いします」などと議論が交わされたとします。

しかし、井上さんは、議論の内容が記憶に残っていません。

後日、上司から「井上君、先日の案件だが…」と聞かれても、「そんなこと決まったっけ…」という状況でした。

「ひとりで努力して成果を出す営業の仕事は順調だったのに、なぜ、多くの人の間を調整する仕事はできないのか」。

失敗を繰り返すたびに悩みが深まり、自責感を強めていった井上さんは、うつを患い、去年（2016年）、休職することになりました。

井上さんは、精神科のクリニックを渡り歩いた末に去年、“大人の発達障害”と診断されました。

幼い頃の様子を家族から聞き取った医師の判断で、井上さんは知能や記憶力・分析力などのレベルを調べる検査を受け、「発達の偏りが、職場で強いストレスを抱えた原因だった」と分かりました。

検査の結果、井上さんは、情報を分析し説明する能力が突出していました。

営業マンの時代はこの能力が発揮されたと考えられます。

それに比べ低かったのが、聞いた情報を記憶する能力です。

中間管理職に要求される会議や調整に苦手意識があったのは、このためとみられます。

40代になるまで気づかないほど目立たない発達障害でも、井上さんの悩みはうつで休職するほど深刻でした。

井上さんは“大人の発達障害”と診断され、「何かうまくいかない、なんでだろうってずっと思っていたけれど、クリアにならないものが少しはっきりした、そういう意味でほっとした」と話しています。

あなたも、私も、発達障害？

井上さんは、「悪気は全くない。一方で、自分にすごくイライラする。恥ずかしい、失敗をした、大きな挫折ではないか、という思いがどんどん膨らんでいって、耐えきれなくなった」と話しています。

井上さんの話を聞いているうちに、私（記者）は、「自分にもこだわりが強いところがあり、“発達障害”に似た要素があるかもしれない」と気づきました。

とはいえ、私は記者として働くとき、ストレスよりも生きがいを感じるので健康です。

本人や職場の人が困らなければ“大人の発達障害”は問題にはなりません。

“大人の発達障害”を専門に研究している東京大学大学院の黒田美保客員教授によると、「人は誰でも発達障害の特性を少なからず持っている」と言います。

そして、かつては「少し個性が強い」と言われていたような人が、仕事が急に複雑にな



イメージ



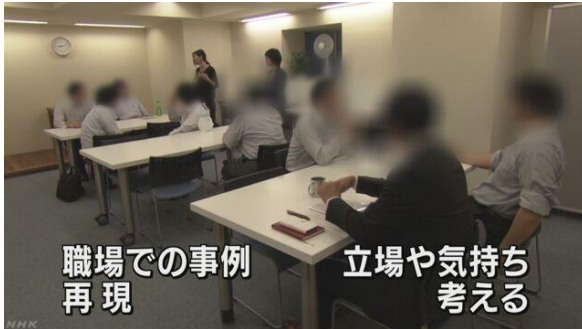
東京大学大学院
黒田美保
客員教授

り企業に余裕が無くなるなかで、ストレスからうつ状態に陥る人が増え、“大人の発達障害”が表面化してきたと分析しています。

「発達障害」診断のあと「発達」したケース

休職中の井上さんは、精神科クリニックで職場復帰支援のトレーニングを受けています。

“大人の発達障害”でうつになった会社員を復職させる全国初のプログラムを始めた「メディカルケア虎ノ門」です。



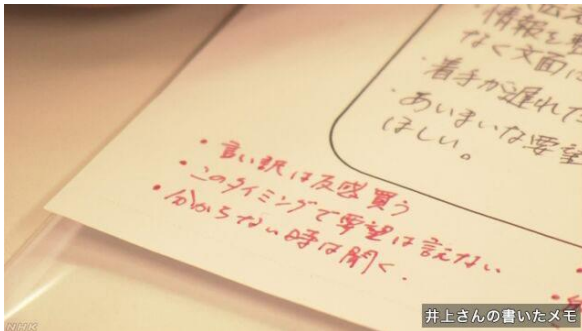
ここにはオフィスを再現した「模擬職場」があります。

心の病で休職している人に週5日、規則正しい生活リズムで「出勤」という形でトレーニングしてもらいます。（「リワーク」と呼ばれる精神科デイケアで、保険が適用されます）。

力を入れているのが“大人の発達障害”専門のグループワーク。職場でトラブルになった事例を再現し、上司と部下、それぞれの立場や気持ちを客観的に考えます。

「みんなは僕と付き合ううえで困っていたんじゃないかな。人のことを考えることもできるようになってきたかもしれない」

井上さんは、仲間とのコミュニケーションによって、自己分析を深め、「模擬職場」で試行錯誤しながら、不得意だった力を伸ばしています。



クリニックの五十嵐良雄院長は、「自分で自分のことをよく知るといのが非常に大事。自分の特徴を学べば、不得意なことやストレスを受けやすいことが分かり、不得意なところが発達していくところがある」と言います。



“大人の発達障害”の専門プログラムを受けた67人のうち9割以上が復職を果たしています。

そのうちの1人の会社員の女性（30代）に、話を聞くことができました。

女性は体調と時間の管理ができないことが課題で、かつては遅刻や欠勤、休職を繰り返していました。

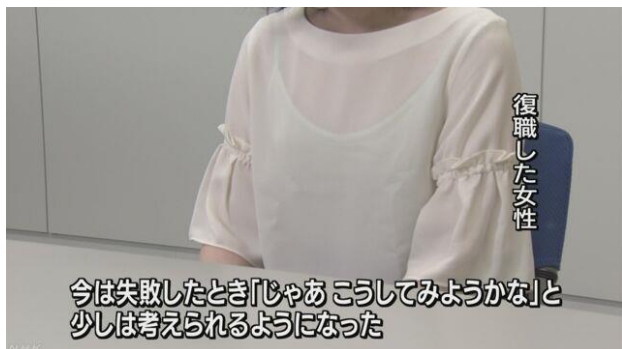
しかし2年間のトレーニングを受けて復職したいまは、毎日定時に出勤していま

す。

一日の仕事の流れを紙に書き、見直す工夫を重ねて、時間を守れるようになりました。

「今は失敗した時、次はこうしようと考えられるようになった。かなり時間がかかったが、何とかやっていけそう」

女性のことばには、自分の中にある障害を乗り越えた努力と自信が感じら



れました。

個性と認め合えば、生きやすくなる

どこまでが“個性”で、どこからが“大人の発達障害”なのか。

その判断は本人の自己理解と企業側の配慮によって、変わってきます。

本人が得意なことを生かせる部署で働いてもらうことや、元の職場で働き続けるうえで必要な力を身につけてもらうトレーニングが解決策になります。

すでに一部のIT企業では、コミュニケーションが苦手でもデータのチェックが得意な人を積極的に雇用しています。

本人に向いている仕事は何か、職場ではどんな配慮をすれば“大人の発達障害”と診断されても生き生きと働きつづけられるのか。

「発達障害」ということが世間に浸透したため、行政や医療の現場にはこうした相談が急増していますが、“個性”を認め合う職場環境をつくることが、うつや“大人の発達障害”で悩む人を減らすことにつながると感じました。

“大人の発達障害”の診断や、支援ができる専門家は日本ではまだ非常に少ないので、増えて欲しいと思います。

新生生前診断、増加続く 4年で4万4千人 共同通信 2017年7月16日



妊婦の血液から胎児のダウン症などを調べる新生生前診断を受診した人は、検査を始めた4年間で計4万4645人だったとする集計結果を、各地の病院でつくる研究チームが16日、発表した。4年目は約1万4千人で前年より1200人増えた。高齢出産の増加などを背景に、受診者は毎年増え続けている。

染色体異常の疑いがある「陽性」と判定され、さらに別の検査に進んで異常が確定した妊婦の94%が人工妊娠

中絶を選んでいた。

新生生前診断は、安易に広がると「命の選別」につながると懸念されている。

神戸5人死傷 多数の被害者出す殺傷事件、各地で 毎日新聞 2017年7月16日



南部さん夫妻が倒れているのが見つかった竹島容疑者宅付近を調べる捜査員＝神戸市北区で2017年7月16日午後0時17分、山崎一輝撮影

16日朝、神戸市北区で計3人が死亡し、女性2人が重傷を負っている事件があった。多数の被害者を出す殺傷事件は各地で後を絶たない。昨年7月に相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で元職員の男が包丁で入所者19人を刺殺。男は事件前に殺害計画を記した手紙を衆院議長公邸に持参し、逮捕後も障害者を差別する供述を繰り返したとされる。

2008年には東京・秋葉原の歩行者天国に男がトラックで突っ込むなどして7人を殺害した。最高裁は「職を転々とする中で社会への不満を募らせた」と動機を指摘した。

近隣住民が被害に遭うケースもある。兵庫県洲本市で15年3月、無職の男がサバイバルナイフで男女5人を刺殺。男には精神障害による入院歴があった。【原田啓之】

複数の死者が出た近年の主な殺人事件◇

2001年 6月 大阪府池田市の大阪教育大付属池田小で

男が児童 8 人を刺殺

- 04 年 8 月 兵庫県加古川市で男が親族や隣人 7 人を刺殺
- 08 年 6 月 東京・秋葉原で男がトラックで歩行者天国に突っ込むなどして 7 人殺害
- 10 月 大阪市浪速区の個室ビデオ店で男が放火し、客 16 人を殺害
- 09 年 7 月 大阪市此花区のパチンコ店で男が放火し、客や店員 5 人を殺害
- 13 年 7 月 山口県周南市で男が同じ集落の住人 5 人を殺害し放火
- 15 年 3 月 兵庫県洲本市で男が近所の住人 5 人を刺殺
- 16 年 7 月 相模原市の障害者施設で元職員の男が入所者 19 人を刺殺

障害者殺傷事件から 1 年 社会で向き合う重要性訴え NHK ニュース 2017 年 7 月 15 日

去年 7 月、相模原市の障害者施設で入所者 19 人が殺害された事件から 1 年になるのに合わせて専門家による講演会が都内で開かれ、専門家は、事件を被告 1 人が起こしたものとせず、社会全体で向き合い続ける重要性を訴えました。

東京・豊島区の立教大学で開かれた講演会にはおよそ 130 人が参加しました。

はじめに立教大学社会福祉研究所の河東田博さんが、施設の再建が検討されていることについて「誰もが地域で当たり前で生きることが大切で利用者たちの声を聞いて地域に根ざした暮らしを実現できるよう支援すべきだ」と訴えました。

また、脳性まひの障害がある東京大学の熊谷晋一郎准教授は、事件後、海外から寄せられた「悲惨な事件が起きると薬物や精神障害は危ないとか、家族が悪いなどとかく犯人捜しをするが加害者は 1 人ではない」というメッセージを紹介しました。

そのうえで、今回の事件で「拙速に普遍的な教訓を得ようとしてはいけない」と述べました。

そして、施設の立地や加害者の孤立など背景にはいくつもの社会的な要因が重層的に影響している可能性を指摘し、事件を被告 1 人が起こしたものとせず、社会全体で向き合い続ける重要性を訴えました。

相模原殺傷 犠牲者 19 人へ街頭で歌い続け 3 人組バンド



毎日新聞 2017 年 7 月 15 日

「19の軌跡」を歌う見形さん(右から2人目)ら歩笑夢のメンバー。右端は新島さん=さいたま市浦和区のJR浦和駅で2017年6月25日、堀和彦撮影

「歩笑夢」が自作した曲「19の軌跡」に共感の輪が広がる

昨年 7 月に起きた相模原市の障害者施設殺傷事件を風化させまいと、埼玉県で活動する 3 人組音楽バンド「歩笑夢(ぼえむ)」が事件で亡くなった 19 人への思いを込めて自作した曲「19の軌跡(きせき)」を街頭で歌い続けている。ボーカルは全身に障害を持つ見形(みかた)信子さん(48)。「いらぬ命なんてない」との思いから事件後に作詞し、共感の輪を広げている。

「僕らはちゃんと生きてきたよ／(中略)風や空や海だって感じる事ができたのに／僕らをどうして不幸せと、勝手に決めるのか」。休日の午後、家族連れが行き交う JR 浦和駅西口(さいたま市)でマイクに向かって声を上げると、徐々に人の輪ができた。

広告

見形さんは幼いころに難病の脊髄(せきずい)性筋萎縮症と診断され、車いすです。徐々に筋力が衰える病気で、自由に動くのは口だけ。食事や着替えなど 24 時間の介助を受ける。障害者の自立を支援する、さいたま市の NPO 法人で働き、十数年前に中学校の特別支援学級の教師、新島茂男さん(58)らと歩笑夢を結成した。以来、週末を中心に

街頭で活動する。

事件後、19人への殺人罪などで起訴された植松聖被告（27）が障害者を差別するような発言をしていると知った。衝撃を受けたが、19人が歩んだ人生を思い「19の軌跡」を作詞した。「僕らがなんにもできないなんて、なんで決めるのさ」と訴える歌詞と透き通る歌声は動画投稿サイト「ユーチューブ」などを通じて広まっている。

作曲はギターの新島さんが担当した。新島さんは「自分の中にもいまだにどこかで差別意識がある」といい、だからこそ歌い続けたいといけなく感じている。17日午後1時から横浜市のJR桜木町駅前街頭コンサートを開く予定だ。

歩笑夢の訴えは海外へも広がる。1年前、事件が起きた7月26日は、27年前に米国で障害者差別を禁じるアメリカ障害者法（ADA）が制定された日でもある。25日には世界中の障害者団体がワシントンに集まってパレードし、見形さんらが英訳した「19の軌跡」が披露されるという。見形さんは「子どもや若い人にも事件の存在を知ってほしい」と話す。【堀和彦】

8位に納得の山口「上位8人に入れて良かった」／陸上 共同通信 2017年7月16日



男子走り幅跳び（知的障害）決勝 8位だった山口光男＝ロンドン

パラ陸上の世界選手権第3日は16日、ロンドンで行われ、男子走り幅跳び（知的障害）決勝でリオデジャネイロ・パラリンピック代表の山口光男（パーパス）が6メートル55で8位だった。

男子走り幅跳びは山口が1回目の跳躍で踏み切りをぴたりと合わせ、6メートル55で8位に入った。期待されたリオ大会では6メートルに届かず、10位に終わっただけに「（6度の試技ができる）上位8人に入れて良かった」と納得の表情だった。

今季から助走を5メートル長くしてスピードを上げ、5月の知的障害者による世界選手権では銀メダルを獲得した。「東京パラでは7メートル跳ばないとメダルは難しい。目指していきたい」と目標を

掲げた。

車内で障害者死亡、段ボール7個分の資料押収

読売新聞 2017年07月16日



捜索を終え、事業所から段ボール箱を運び出す捜査員ら（15日午後、埼玉県上尾市で）

埼玉県上尾市戸崎の障害福祉サービス事業所「コスモス・アース」の送迎用車内で、重度の知的障害のある男性利用者（19）が死亡した事故で、県警は15日、事業所を捜索し、業務などに関する資料などを押収した。

県警は押収した資料を分析するとともに職員らからの聴取を行い、男性の死亡の経緯などを詳しく調べる。

県警の捜査員はこの日午前10時15分頃、2台の車で到着。腕章をつけ、折りたたんだ段ボールなどを持って建物内に入った。事業所はこの日、利用者の姿は見られず、窓のブラインドは閉まったまま。中の様子は見えなかった。

約3時間後、車が建物に横付けされ、捜査員が段ボールを運び出した。段ボールの数は7個。捜査員らは数分で段ボールを車に積み込み、事業所から去っていった。

押切もえさんが児童書...鳥取舞台、挿絵も

読売新聞 2017年07月16日

障害者との共生を目指す鳥取県の「あいサポート運動」PR大使を務めるモデルの押切

もえさん（37）が、大使としての活動を通じた経験をもとに、鳥取を舞台にした児童書「わたしから わらうよ」（ロクリン社）を出した。

「訪れるたび、鳥取の豊かで美しい自然に驚かされ、人の温かさに感動したところを伝えたい」と話している。

押切さんは2015年2月、同運動PR大使を委嘱された。障害者と絵画を共同制作したり、ホノルルマラソンで障害者ランナーの伴走を務めたりし、県内でも関連のイベントで障害者と触れ合ってきた。



押切もえさんが出版した「わたしから わらうよ」

本は、東京に住む小学3年生の少女・桜が夏休みに一人で若桜町の祖母の家に泊まる数日間の物語。「嫌われたらどうしよう」と心配するばかりで、自分の気持ちを素直に表現できなかった桜が、同い年の少年・海斗や祖母、絵画を描いている車いすの青年らとの交流を通じ、心を開いていく姿を描く。

表紙のイラストや堤防で海を眺める桜と海斗の後ろ姿、パンの絵などの挿絵も押切さんが手がけた。作中には、浦富海岸や鳥取砂丘、障害者の就労支援に取り組む鳥取市のパン屋「ぱにーに」など、実際の風景や店舗も登場する。

押切さんは出版にあたり、「自分の好きなことをやっていくことで、人に喜んでもらえることがあると思う。そこに焦点をあてて読んでもらえたら」とコメントしている。四六変型判、180ページ。税抜き1400円。

障害児たち海中散歩楽しむ 家族と一緒に、静岡・伊東 共同通信 2017年7月16日



手足が不自由な子どもたちが、家族と一緒に海に潜り、生物に触れ遊び学ぶ「アソマナプロジェクト」が16日、静岡県伊東市で始まった。「海の日」の17日までの2日間、親子ら19人が参加する。

「アソマナプロジェクト」で顔全体を覆う水中マスクを着け、母親の桃子さん（右）と一緒に海中散歩を楽しむ鈴木元拓さん（中央）＝16日、静岡県伊東市

障害者ダイビング指導団体のHSA・JAPANなどが企画。障害のある子どもを持つダイバーが、海中を見せたいと願ったのがきっかけだ。

さいたま市から参加した脳性まひの鈴木元啓さん（15）は、顔全体を覆う水中マスクを着け、母親の桃子さん（45）や介助のダイバーと一緒に海へ。マスクは特注で、自分で重いタンクを背負えなくても、付き添うダイバーのタンクから空気が送られる仕組み。

元啓さんは、海の中で笑顔が絶えず「青い魚をたくさん見て楽しかった。また潜ってみたい」と話し、海中散歩を満喫した様子だった。

社説：医療・介護費を不断の改革で抑えよ 日本経済新聞 2017年7月17日

2014年度の国民医療費は40兆円強、介護給付費は10兆円と合わせて50兆円を突破した。国内総生産（GDP）比は早くも節目の10%水準に達している。医療・介護費は経済成長を上回って膨張しており、制度の持続性が危うい。

これまで私たちはGDPの10%を大きく超さぬよう不断の改革で膨張を抑えるよう求めてきた。戦後ベビーブーム期に生まれた団塊の世代「1期生」が後期高齢者になるまでに5年しかない。安倍政権は制度の持続性を確かにする改革に早急に乗り出すべきだ。

安易な後期医療の財源

政権は19年10月に消費税率を10%に上げる。医療・介護費の膨張構造を温存したままでの増税は、穴が開いたバケツに水を注ぐに等しい。増税分を社会保障の充実に有効に使うためにも、まず給付抑制に主眼を置かねばならない。

政府は18年度に医療・介護の公定価格である診療報酬と介護報酬の増減率を同時に改定する。主に医療職の人的費に充てる診療報酬本体の改定率は、日本医師会を巻きこんでの大議論になろう。

デフレが続き、賃金水準が全般に伸び悩んだこの十数年、報酬本体は上昇基調をたどっている。一段の引き上げの必要性は小さい。医療改革の重要な論点は、公の健康保険の給付範囲をどうするかだ。医師が処方する薬のなかには薬局が扱う市販薬と成分や効果・効能が変わらないものがある。このような処方薬は保険の対象から外するのが原則である。

先進医療の扱いも焦点だ。医療技術の進歩には目を見張るものがある。がんや循環器疾患などの分野では新技術や新薬が次々に開発されている。患者本位の医療を実現させるためにも、有効性・安全性を確認したものは早く治療に使えるようにすべきだ。

それには、当座は保険対象外であっても、患者がほかの保険診療と同時に受けられる混合診療を広げるのが理にかなっている。

重複受診や多重検査を減らすには家庭医と専門医の役割分担を促すのが有効だ。医学教育を拡充させ、種々の病気を一通り診られる家庭医を育てる必要がある。

患者は重篤な病気が疑われる場合を除き、家庭医へ行くのを原則とし、必要に応じて専門医にかかる仕組みにする。双方の連携を密にすれば医療の質は高まる。

加えて医療費の負担構造の見直しが待ったなしだ。後期高齢者の医療費は税財源を主体にするのが筋である。しかし厚生労働省などは企業の健康保険組合などの拠出金を増やすことで繕った。取りやすいところから取る策の典型であろう。社会保障・税一体改革による消費税の増税分を充てる病院補助金などは減らし、後期医療に回してはどうか。

今や年間の死亡者は130万人を超える。25年には150万人に激増する見通しだ。多死社会が到来するなかで介護保険改革が急務だ。論点は主に3つある。

第1は、真に介護が必要な人に質の高いサービスが届くよう、軽度の要介護者はその経済状況に応じて自己負担を増やすなどして給付範囲を絞り込む。料理、掃除の手伝いなど生活援助を漫然と続けていては制度はもたない。

第2は、要介護度の改善や自立の後押しだ。どのサービスがより効果的か、自治体は先進事例の研究やビッグデータ分析を急ぎ、有効な仕組みをつくってほしい。

介護の給付範囲を絞れ

第3は、要介護者を支える体制を自治体が当事者意識を持って整えることだ。末期がんの痛みを和らげるケアやみとり医療の重要性は一段と高まっている。持病を抱えていても病院より自宅や施設で暮らしたい高齢者の思いに応えるためにも、急性期病床から居住性の高い施設への転換を促したい。

介護は重労働だ。それに見合う賃金の引き上げが課題だが、財源を介護報酬だけに頼るのは無理がある。解決策の一つは、利用者が自費でサービスを受けやすくすることだ。その前提として保険サービスと組み合わせる混合介護の使い勝手をよくする必要がある。

逆風のなかで介護人材を増やすのが喫緊の課題だ。法務、厚労両省は外国人の技能実習に介護を加えるが、付け焼き刃と言わざるを得ない。経済連携協定を結んだ東南アジアの国から意欲ある人材が来やすいよう運用を見直すのが本道だ。ロボット介護をどう位置づけるかも、結論を急いでほしい。高齢者などからの反発を恐れて医療・介護改革を先送りすれば制度がもたない。為政者は将来世代に責任を持ち、正面から切り込むべきである。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行